

大阪大学図書館報

Vol.35 No.4 Mar. 2002(平成14年)通巻142号

目 次

- 「竹友文庫」と「藤井文庫」
- 教官著作寄贈図書
- 電子図書館への招待② Web of Science
- お知らせ
 - ・本館A棟1階の資料配置について
 - ・本館閲覧用雑誌の更新と移動
 - ・平成14年度いちょう祭について
- 会議・日誌

「竹友文庫」と「藤井文庫」

玉井 暉

ここ二年余りにわたって、本学図書館において、竹友庸雄（藻風）、藤井治彦ご両家のご遺族より寄贈を受けた蔵書を受け入れる作業が順調に進んでいるのを目の当たりにして、この度の寄贈の実現を心より願っている者の一人としてうれしく思う。受け入れが完了すれば、「竹友文庫」、「藤井文庫」の両文庫のカタログの刊行が待っている。いま、そのための準備に取り掛かったところである。

「竹友文庫」は、高名な学匠詩人で、本学文学部の英文学講座初代教授であられた竹友藻風先生（1891－1954）の蔵書にもとづくものであ

る。本学図書館への寄贈は、藻風先生のご子息で、同じく本学文学部の英文学講座の教授であられた故藤井治彦先生のご希望であったのだが、藤井先生は、みずから果たすこと能わず、停年退官を数ヵ月後に控えて不治の病にて逝去された。したがってこのたびの寄贈は、藤井先生のご遺志が実現されたものとして、私ども英米文学研究室のあとを引き継いだ者にとっては喜びもひとしお大きい。

「竹友文庫」は、じつは、本学図書館にすでに存在する。それは、藻風先生が1954年（昭和29年）逝去されたことにともない、翌年、先生

の蔵書の一部が寄贈されたものである。この文庫は、主に英文学関係の書籍であって、数千冊よりなっている。それゆえ、この度寄贈された書籍は藻風先生の残りの蔵書ということになり、「竹友文庫（第2期）」と称することにした。

「竹友文庫（第2期）」は、先の文庫とはちょっと異なり、その特色が際立っているかもしれない。それは、藻風先生の英文学者としての相だけでなく、上田敏の高弟であって与謝野晶子とも親交のあった詩人として、また、フランス文学・イタリア文学などヨーロッパ文学に造詣の深い批評家として、特にヴェルレーヌの詩やダンテの『神曲』『新生』の優れた翻訳者として、さらには日本野鳥の会の会員としてなどの活動をも含めて、先生の文学者としての多彩な活躍の総体が、この度の蔵書から窺えるからである。その数、およそ6,000冊にのぼる。

藻風先生は、『竹友藻風選集、全2巻』（藤井治彦編、南雲堂、1982）に付された「著作目録」によると、単行本にかぎっても69冊を数える著作を残された。それらの自著はすべてこの度の「文庫」に入っている。専門分野の英文学関係では、主著『英文学史、670－1660』（1936）、『ドライデン』（1938）、『クリスティナ・ロセッティ』（1924）や、学位請求論文『Spenser とその周囲』（大阪大学文学部紀要第1巻、1952）が含まれている。『詩学と修辞学』（1944）、『エッセイとエッセイスト』（1947）や、訳詩集『希臘詞花抄』（1924）、還暦記念に出版された訳詩集『法苑林』（1951）も入っている。翻訳書としては、『ロミオとジュリエット』『ハムレット』『十二夜』などのシェイクスピアの劇作品、バニヤン『天路歴程』（岩波文庫）や、ダンテ『神曲』（1948－50）、『新生』（1961）なども入っている。もちろん先生のご自身の詩集『時の流れに』（1920）、『石庭』（1938）などの作品も含まれている。

さらに本「文庫」は、英文学関係の作品や研究書にとどまらず、上田敏や平田禿木の著作、

雑誌『明星』、日本野鳥の会の機関誌『野鳥』などの初版本・初出版を数多く含んでいる。それゆえ、本「文庫」は、ただ単に、英文学やヨーロッパ文学や日本文学に関する書物を収集しただけのものではない。竹友藻風を大正・昭和の時代に活躍したひとりの個性的な詩人・文学者と見るならば、こうした文人竹友藻風を研究するためには必須の文献・資料が多量に収藏された文庫ということができよう。「竹友文庫（第2期）」は、先の「竹友文庫」と一つに合わさせて、いっそう貴重な文庫となろう。

藻風先生の詩は、漢語や文語を多用していて、一般に難解だと受け取れることが多い。では、今の若い学生諸君にとっては読むのが苦手なのだろうか。ところが、あにはからんや、英文学の講義のなかで紹介してみると、藻風先生の詩はなかなかの人気なのである。先生の訳詩の主だったものは、すでに紹介した『法苑林』において容易に読むことができる。たとえばシェイクスピア『ソネット集』のなかの第18番に、若者の美しさを夏の日にたとえて詠んだ有名な詩があって、英文学を学ぶうえで欠かすことのできない作品である。講義の折、この原詩に添えて、何種類かある他の訳詩とともに藻風訳を紹介してみると、藻風訳が良いという学生諸君が意外に多い。原詩の最初の二行は、“Shall I compare thee to a summer's day? Thou art more lovely and more temperate.”となっている。藻風先生は、これを、「君をしもたぐへつべきか、夏の日に、/ うるはしさ、おだやかさ、君はまされり」と訳される。これは、たとえば日本のモダニズムの代表的詩人西脇順三郎による訳詩「君を夏の日にたとえても / 君はもっと美しいもっとおだやかだ」のような口語的な訳よりもおもしろくて、より詩的だという反応が返ってくるのである。藻風先生の＜難解な＞詩に対して、若い諸君のこのようなしなやかな反応を、言葉に対する感性がいまだ枯渇していないことの証しとして喜びたいと思う。

「藤井文庫」は、阪大ご停年退官まであと数カ月を残して逝去された故藤井治彦先生(1935—98)の蔵書にもとづくものである。藤井先生は、藻風先生の四男一女の末っ子としてお生まれになった。進路を決めるに当たっては西洋美術史を専攻しようかと一時迷われたようであるが、結局、父君のおられる阪大文学部に進学され、父君と同じ英文学者の道を歩まれることとなった。ご専門は、エドマンド・スペンサーやミルトンを中心とする17世紀イギリス・ルネサンス詩である。

それゆえ「藤井文庫」は、主にイギリス詩研究に関わる書籍からなっている。ルネサンス詩の領域ばかりでなく、中世時代から現代20世紀にいたるまでのイギリス詩を研究するための重要な研究書や詩集が数多く含まれているのである。しかも、英語および日本語で書かれた英文学関係の書物のほかに、英詩の主要な作品の訳詩集がかなり網羅的に収集されており、その点で、イギリス詩の研究をするための基本的な文献・資料が整えられた、きわめて注目すべき性格をもったコレクションといえる。蔵書数は、およそ6,000冊に達する。

「藤井文庫」には、藻風先生の場合と同じく、文庫の主ご本人の著作もたくさん含まれている。20数冊にのぼる著書、編著、翻訳書のうち、もちろん学位請求論文の*Time, Landscape and the Ideal Life: Studies in the Pastoral Poetry of Spenser and Milton* (Apollon-sha, 1974) や、『「楽園喪失」－思想としての空間』(研究社、1982)、『イギリス・ルネサンス詩研究』(英宝社、1996)などの主著が含まれている。恩師柴田徹士先生との対談集で、いまも根強い人気がある優れた啓蒙の書『英語再入門』(南雲堂、1985)も、訳書アーネスト・ジョーンズ『フロイトの生涯』(紀伊國屋、1964)、E.M.W. ティリヤード『英詩とその背景』(南雲堂、1975)なども入っている。

本「文庫」において、藤井先生のこうした専門分野に関わる著書のほかに、興味深いのは、

英文学のみならず他の国の文学や、西洋絵画、モダン・アート、映画などの多様な文化的トピックについて、少し肩の力を抜かれて書かれたエッセイの類が含まれていることである。これらの文章は、かなりの数にのぼるのだが、先生がご健在であったならば、おそらく退官後に何冊かのエッセイ集にまとめられたであろうが、それも望めない今となっては、さまざまな書物や雑誌やパンフレットから探し出してきて拾い読みするしかない。幸いなことに、本「文庫」にはそうした類の文献・資料を可能な限り収めることができたので、その気になれば容易にアクセスすることができる。

たとえば、千里に本拠を置く同人雑誌『千里眼』の第2号(1983)に寄せたエッセイに「いとうるわしい木、桜は、今」と題するものがある。これは、イギリスの詩人で、ケンブリッジ大学ラテン文学講座教授でもあったA.E. ハウスマン(1859—1936)の詩について述べた文章であって、なかに先生自身の訳詩が載っている。藻風先生の訳詩とは異なり、藤井先生は簡潔で平易な言葉を使われる。しかし言葉のリズムへの配慮を忘れない。原詩は、“Loveliest of trees, the cherry now”という一行から始まるのだが、そう長くないので引用してみよう——

いとうるわしい木、桜は、今 / 枝いっぱいに花開き、 / 森の乗馬道近くに立つ / イースターの白い装いで。

我が定命七十のうち / 二十はすでに戻るよしなく、 / 七十の春から二十を引けば / もはや残るは五十のみ。

花の盛りを眺めるには / 五十の春は余りに短い。 / それゆえ私は森へと向かう、 / 雪にもまがう桜を見ようと。

(「いとうるわしい木」、1896)

この詩に登場する青年は二十歳を過ぎたばかりだが、残り五十年の人生のなかで何ほどの花を見ることができようかと、老成した想いに浸っている。イギリス詩のなかには、人間と自

然を対比して生命の盛りとその短さを詠む詩が意外に多いのだが、藤井先生はこの種の詩を数多く知つておられた。このエッセイも先生のそうした面を窺わせるものであろう。詩の最後の連について、このようなコメントをつけておられる。「必ずしも桜のことだけを言っているのではなく、<およそ何にせよ、花盛りのものを眺めるには>とも取れる・・・。花の季節にハウスマンの詩を読むこともまた、もうひとつの花盛りを眺めることとなろう」。文章のなかにさりげな

く鋭い洞察を忍ばせるのが得意な先生であった。

「竹友文庫」と「藤井文庫」は、このように、奇しくも親子二代にわたる英文学者の家が所蔵していた書籍にもとづくものである。今日、「家」としての学者がなかなか存立しがたい状況を考えると、これらの「文庫」はきわめて稀なケースで、特異な性格をもつているといえよう。両文庫を、本学図書館が誇るユニークな文庫として永く大切にしてもらいたいと願っている。

(たまい・あきら、文学研究科教授)

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (2002/Jan.-Mar.) ■■■■■

本 館	
入江 幸男 (文、助教授)	ドイツ観念論の実践哲学研究 / 入江幸男著 東京：弘文堂, 2001
西脇 醇 (理・工作セ、助教授)	鉄合金状態図集：二元系から七元系まで / O.A.バニフ[ほか]編著 東京：アグネ技術センター, 2001
坪村 宏 (名誉教授)	新物理化学 / 坪村宏著 京都：化学同人, 1994
工藤 真由美 (文、教授)	対話で進む理科教育：日本語を母語としない児童生徒のための日本語指導に関する考察 / 工藤真由美編 横浜：横浜国立大学教育人間科学部, 1998 算数・数学教科書の日本語の考察：日本語教育の観点から / 工藤真由美編 横浜：横浜国立大学教育人間科学部, 1997
薬学部（大阪大学薬学部創立50周年記念事業実行委員会）	大阪とくすり / 大阪大学薬学部創立50周年記念事業実行委員会編 吹田：大阪大学出版会, 2002 (大阪大学薬学部創立50周年記念出版；1) 阪大薬学ア・ラ・カルト / 大阪大学薬学部創立50周年記念事業実行委員会編 吹田：大阪大学出版会, 2002 (大阪大学薬学部創立50周年記念出版；2) (以上2冊は薬学部図書室にも寄贈)
奥 健夫 (産研・助教授)	知的生命情報概論 / 奥健夫著 名古屋：三恵社, 2002

(敬称略、受付順)

<訂正>

前号に掲載した教官著作寄贈図書の中で、国際公共政策研究科のコリン・マッケンジー教授よりご寄贈の図書の書名に誤りがありました。お詫びして、訂正いたします。

誤：Viewsによる計量経済分析：実践的活用法と日本経済の実証分析

正：EVViewsによる計量経済分析：実践的活用法と日本経済の実証分析

電子図書館への招待 その 2 Web of Science

1 概 要

すべての学術研究は、過去の研究の積み重ねの上に成り立っています。読者は、論文の脚注や引用文献リストによってその論文と過去の研究との関係を知り、また他の有用な文献の存在を知ることができます。Web of Scienceは、このような文献相互間の引用・被引用関係をデータベース化し、引用文献から被引用文献へ、および被引用文献から引用文献への双方向の追跡をWebブラウザ上で可能にしたもののです。

Web of Scienceは、主に3つの索引誌（引用索引データベース）、Science Citation Index (SCI), Social Science Citation Index (SSCI), Art & Humanities Citation Index (A&HCI)のWeb版です。大阪大学ではこのうちSCIの1990年以降の部分が使用できます。

本来これらは引用・被引用関係による学術文献の探索(→2)を主な目的として作られました¹⁾。また論文の被引用回数(→3)が調べられ、業績評価にも利用されています。

2 引用-被引用関係による文献探索

2.1 引用-被引用関係のリンク

Web of Scienceでは各文献の詳細表示画面に、その文献が引用している文献へのリンク(図1のA)と、その文献を引用している文献へのリンク(図1のB)が用意されています。Web of Scienceでは、採録された文献で引用-被引用関係にあるものはすべて互いにリンクされており、それらの間を前向き(被引用)・後ろ向き(引用)双方向に移動できるのが特徴です。

また、その文献と類似した引用文献プロフィールを持つ文献へのリンク(図1のC)も用意され、単純な引用関係とは異なる角度から関連文献を探し出すことができます。

これらによりWeb of Scienceは、他のデータベースとは異質の、強力な文献探索機能を提供

するツールとなっています。

例えば次のような使い方ができます。

2.2 文献の発見とリストアップ

広範囲の関連文献が短時間でリストアップできます。印刷された論文のレファレンス・リストに当たるのと比べ、先行研究だけでなく並行・後続の研究も探し出せること、被引用回数による評価を加味できること、文献入手と切り離して事前に調査できることなどが特徴です。既知の文献から前向きにリンクをたどると、そのテーマについてより新しい原著論文やレビューが見付けられる可能性があります。

2.3 研究の流れを追う

引用文献の流れを追うことで、ある研究がどんな研究に依拠しているか、どんな方面への応用があるか、研究の流れがどんな方向へ向かっているか、鍵となる文献は何か、等々が調べられ、研究動向をより多面的に把握できます。

2.4 研究を評価する

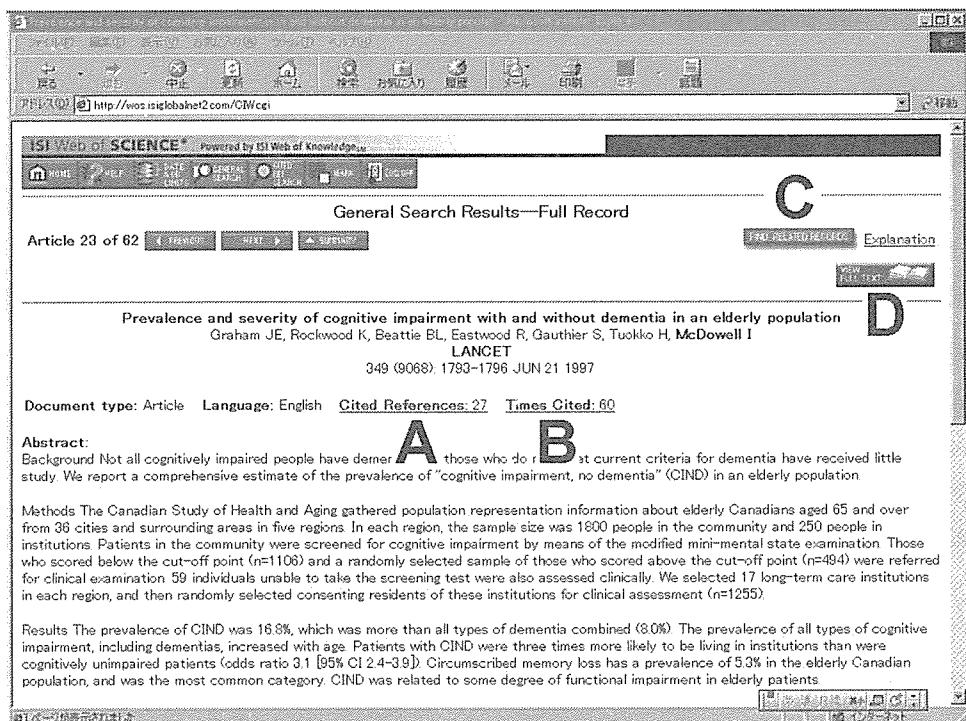
同様の手法で、ある論文、あるいは自分がいま取りかかろうとしている研究が、既存の他の研究との関係でどのような位置を占めるかを探ることができます。日本では研究の「評価」というと被引用回数による事後的な評価が専らですが、研究遂行の各段階での当該研究に対する能動的な評価こそがこのデータベースを活かす本来の使い方だと指摘されています²⁾。

3 被引用回数 (Times Cited)

3.1 評価指標としての被引用回数

文献の詳細表示画面でTimes Citedの後に表示された数字(図1のB)がその文献の他の文献による被引用回数です。

被引用回数は、その研究が学術の世界に与え



た影響の大きさを表す1つの指標とみなされ、業績評価にしばしば用いられます。SCI(=Web of Science)は、国際的な科学・技術・医学系雑誌収載論文の被引用回数を調べることができる唯一の情報源です。ただしSCIに採録される雑誌の選択や評価指標としての被引用回数の妥当性については、批判も根強くあります³⁾。

3.2 インパクト・ファクターと被引用回数

論文掲載誌のインパクト・ファクターをそのまま論文評価に用いる例が見られますが、これは誤用です。被引用回数に代えて雑誌の評価指標であるインパクト・ファクターを個別の論文の評価に直接結びつけることはできません⁴⁾。

4 アクセスと利用条件

現在は学内のパソコンから米国ISI社のサイト <http://wos.isigoalnet2.com/> にアクセスすれば、全学どこからでも無料で自由に使用できます。ライセンス上、学外では使用できません。図書館のホームページにもリンクがあります。2002年途中からは講座校費による有料登録制

になる見込みです。図書館内では他のデータベースと同様、引き続きフリーでご利用になれる環境を用意する予定です。

5 基本操作

5.1 開始

初期画面でFull Searchをクリックし、次の画面でGeneral SearchまたはCited Ref Searchをクリックすると検索画面に移ります。そのさい、年(注:出版年ではなくデータ採録年)も指定できますが、通常は特に必要のない限りAll yearsのまま次に進む方が安全です。

5.2 General SearchとCited Ref Search

General Searchはこのデータベースに採録されている文献の検索です。ヒットするのはライセンスの範囲内(1990年以降のSCI収載誌)の雑誌文献に限られます。これに対しCited Ref SearchのLookupは、それらの文献によって引用されている文献の検索です。引用対象となつていれば、1989年以前・SCI収載誌以外の文献でも、また年代によりますが図書・法令・特許・学位論文などでも、ヒットします。

5.3 検索

画面に表示されている例や説明に従って下さい。主な注意事項は表1の通りです。Cited Ref SearchではLookupの後、一覧リストの□にチェックしてSearchをクリックすると、その文献を引用している文献が検索されます。

検索機能はごくシンプルですが、Web of Scienceでは検索は入り口に過ぎず、これに続く引用文献の追跡こそ本来の「検索」であることを忘れないで下さい。

5.4 結果の出力とマーク

マークしたレコードをまとめて、またはそこからさらに選択して、プリントアウト、メール送信、ダウンロード、および文献管理ソフトにエクスポートすることができます。出力する項目の一部は画面上で選択でき、引用文献リスト(Cited References)なども付加できます。

マークを付けるには、詳細表示画面でMarkをクリックするか、Submit Marksボタンのある一覧画面で□をクリックしてチェックを付けSubmit Marksをクリックして下さい。一覧画面ではMark Page, Mark Allもできます。

5.5 フルテキストリンク

Web of Scienceでは各文献ごとに書誌事項と引用関係(と抄録)がデータベース化されていますが、大阪大学でフルテキストがオンライン利用できる文献には外部のフルテキストデータへのリンク(図1のD)もあります。ただしオンライン利用できるすべての文献がリンクされているとは限りません。

5.6 終了

同時ユーザ数に制限があります。終了時はLog Offボタンでログオフして下さい。

表1 検索の際の主な注意事項

キー操作
・項目の移動はTabキーかマウス、検索開始はSearch / Lookupを使用。Enterキーを使用すると、ブラウザによっては初期画面に戻ってしまうことがある。
検索語
・大文字小文字は区別されない。 ・単語の連続はフレーズとみなされる。 ・ワイルドカード*、?で前方一致。 ・and, or, not, same, sentは論理演算の指示とみなされる。
AUTHOR ; CITED AUTHOR
・第2著者以下も検索対象となる。 ・2語以上から構成される姓の入力形式は、年代によって違いがある。
SOURCE TITLE ; CITED WORK
・このデータベース上で使われている形式の雑誌名を正しく入力する。
TOPICS
・ストップワード(冠詞、前置詞など約200語)は検索されず、単に前後の語の間隔を示すものとして扱われる。

6 被引用回数調査に関する補足

6.1 より正確に調べる

もともとの論文自体の引用記述の誤りがWeb of Scienceのデータに反映し、Times Citedが本来の数よりも少なく表示される場合があります。Cited Ref SearchからLookupで一覧画面を表示し、目的の文献の誤引用データがあればその件数も合算することで、誤引用によるカウント漏れをある程度まで救うことができます。

Cited Ref Searchでヒットしないときや詳細表示に行き着かないときは、General Searchから再検索して詳細表示画面を調べて下さい。Times Citedが1以上なら、Cited Ref Searchが正しかったかどうか(例えば検索に用いた著者名や年に誤りがなかったか)を確認する必要があります。

6.2 1989年以前の文献

1989年およびそれ以前の科学・技術・医学系文献の被引用回数を調べたい場合、大阪大学で

は次の2つの方法があります。

- 1) 有料(校費)のオンライン検索(1974-)
- 2) SCIプリント版を調べる(1955-)

データソースはいずれも Web of Science と同じ SCI です。1)は附属図書館本館と各分館で受け付けています。2)は生命科学分館にあります。ただし他の方法に比べて調査には労力を要します。また2000年まで購読中止のため、比較的新しい文献や、いわゆる「息の長い」分野での調査には適しません。

詳しくは各館にお問い合わせ下さい。

- 1) Garfield E. Citation indexes for science : a new dimension in documentation through association of ideas. *Science*. 15 July 1955; 122(3159): 108-111
- 2) 根岸正光 研究評価とビブリオメトリックス 情報の科学と技術. 1999; 49(11): 544-549
- 3) MacRoberts MH, MacRoberts BR. Problems of citation analysis: a critical review. *J. Am. Soc. Inf. Sci.* 1989; 40(5): 342-349
- 4) Seglen PO. Causal relationship between article citedness and journal impact. *J. Am. Soc. Inf. Sci.*

(文責: 医学情報課参考調査掛・諫訪敏幸)

お知らせ

●本館A棟1階の資料配置について

本館A棟(新館)1階に電動集密書架が設置されることについては、前号でもお知らせしたとおりです。設置工事に続いて資料の移転・配架作業も終了し、閲覧席も10席設置されました。平成14年4月よりサービスを開始する予定です。

現在、新しい書架に配置されているのは、以下の資料です。

1. 旧版参考図書

本館新築工事前に、書庫棟3階に配架してあった、次のような参考図書類です。

- ・辞書、事典、海外出版目録、所蔵目録、人物団体名鑑等の旧版。
- ・年鑑・統計・白書類(概ね1990年以前のもの)。

2. National Reporter System

米国の判例集で、現在も継続受入中です。(A棟5階より移動)

3. 科学研究費報告書類

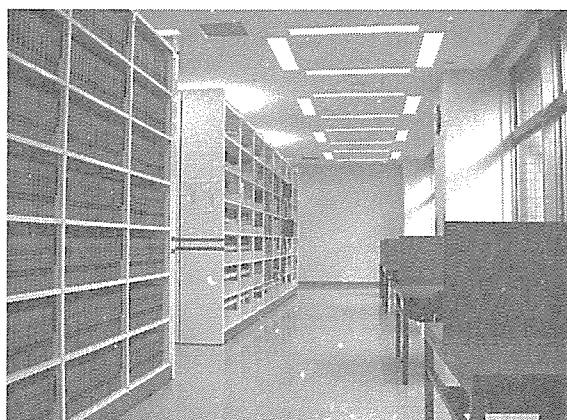
大阪大学内の科学研究費補助金研究報告のうち、豊中キャンパス関係の報告書の一部が配架

されています。

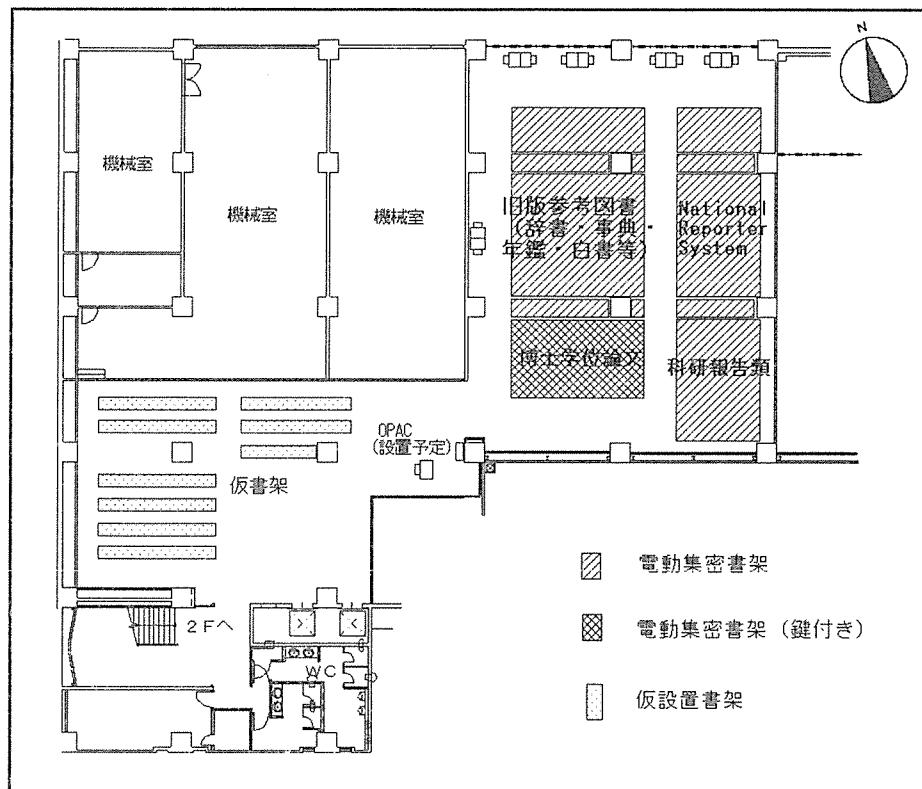
4. 大阪大学の博士学位論文

文学・人間科学・法学・経済学・工学・理学・言語文化各研究科の博士学位論文が配架されています。利用には、カウンターでの申込みが必要です。

資料の配置については、次頁の図を参照してください。



A棟 1階
配置図



●本館閲覧用雑誌の更新と移動

本館A棟3階リフレッシュ・ロビーで提供している雑誌のタイトルが、平成14年度より一部入れ替わることになりました。

- ・平成14年度より新規に購入するタイトル
『Kansai Walker』、『ワールドサッカーダイジェスト』、『日経ビジネス』、『日経Linux』、『ダ・ヴィンチ』

・平成13年度まで中止するタイトル

『キネ旬ムック・フィルムメーカーズ』、『学術月報』、『出版ニュース』、『新日本文学』(『学術月報』は事務用で購入し、製本保存しています。)

また、リフレッシュ・ロビーの雑誌の一部に外国学術雑誌を配架していましたが、これはC棟の理工系雑誌閲覧室の方に移動する予定です。

●平成14年度いちょう祭について

図書館では毎年、大阪大学創立記念日前後のいちょう祭に合わせて、文学・法学・経済学の各学部・研究科と合同で展示会を開催しています。

この展示会は、従来はいちょう祭期間中のウィークデイの一日だけを使って開催してきましたが、平成14年のいちょう祭展示会は、これまでより開催時間を拡大し、4月29日（月・

祝日）、30日（火）の二日間にわたって、本館6階の図書館ホールで開催することになりました。また、この二日間は本来は休館日ですが、臨時に開館し、展示会にあわせて、閲覧室の一般公開も行うことになりました。

展示内容も各方面の協力を得て従来より充実したものにする予定です。詳細については、後日広報いたします。

|||||| 会 議 |||||

電子図書館システム・サイバーメディアセンター・デジタルコンテンツ合同委員会

12. 14 (金) 9:30 ~ 10:30

次の事項について、審議を行った。

1. BIOSIS サービスの中止について
2. 平成 14 年度データベースサービスについて

分館長会議

2. 15 (金) 14:00 ~ 14:40

体系検討小図書館委員会の議題整理を行った。

体系検討小委員会

2. 15 (金) 15:00 ~ 16:20

次の事項について、審議を行った。

1. 大阪大学図書館委員会規程等の一部改正について
2. 概算要求・総長裁量経費・重点経費・間接経費の要求について
3. 学生用図書の充実について
4. 電子ジャーナルの整備と今後の諸課題について
5. 中期目標の設定について

電子図書館システム・サイバーメディアセンター・デジタルコンテンツ合同委員会

2. 21 (木) 10:00 ~ 11:00

次の事項について、審議を行った。

1. 平成 14 年度データベースサービスについて
2. 平成 14 年度サイバーメディアセンター・データベースサービスの試行について
3. デジタルコンテンツ委員会委員について

|||||| 日 誌 |||||

H 13. 12. 7	近畿地区国立大学図書館事務部課長会議	(本館)
12. 14	電子図書館システム・サイバーメディアセンター デジタルコンテンツ合同委員会	(サイバーメディアセンター)
H 14. 1. 17	国立大学附属図書館事務部長会議	(山形大学)
1. 18	外国雑誌センター館幹事会	(東京工業大学)
2. 15	分館長会議	(本館)
2. 15	体系検討小委員会	(本館)
2. 21	電子図書館システム・サイバーメディアセンター デジタルコンテンツ合同委員会	(サイバーメディアセンター)